

平成27年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成27年4月1日～平成28年3月31日

平成28年8月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

○教育委員会評価にかかる難易度基準の設定

難易度	難易度設定の基準
A	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
B	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
C	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

○教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

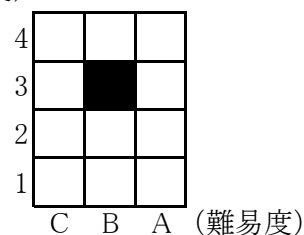
○評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。

難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。

右の例示は難易度B、達成度3。

(達成度)



平成27年度 加西市教育委員会点検評価総括表

大項目	重点目標	実践目標	取組内容	評価		担当課
				難易度	達成度	
新しい時代を切り拓くこころ豊かな人づくり	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます	1 遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育を進めます	体験的な活動の充実ならびに食育を通じて家庭、地域との連携推進	A	3	こども未来課
			3～5歳児(36か月)の発達を見通した教育カリキュラムを実施	B	3	
			小学校教育への滑らかな接続に情動知能を育てるSTARTプログラムの実践	B	3	
			子育て相談などの機会設定と療育・健康部門と連携した子育て支援の推進	A	3	
		2 発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます	幼小中学校及び関係機関との連携の推進	A	3	総合教育センター
		3 知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります	基礎的基本的な知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力等を培う授業づくり	A	3	学校教育課
			児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の推進	A	3	
	4 自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます	豊かな心を育成する道徳教育や体験活動等の充実	B	3	学校教育課	
		いじめ防止の取組の充実	A	3	総合教育センター	
	5 運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます	体力・運動能力の向上、健康教育、食育の推進・充実	B	3	学校教育課	
		安全安心な学校給食の実施	B	3	教育総務課	
	6 家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます	特色ある学校づくりの推進	B	4	総合教育センター	
	7 教職員としての資質能力の向上に努めます	教職員の研修講座の充実	A	3	総合教育センター	
	2 習「市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進めます	1 市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進めます	学習機会の提供と生きがいづくりの推進	B	3	生涯学習課
			学習拠点としての図書館の機能整備と有効活用	B	3	図書館
	2 豊かな心を育み、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります	2 豊かな心を育み、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります	指定文化財および埋蔵文化財の保護活用と情報発信	B	3	生涯学習課
			地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動支援	B	3	
	3 みんなで子どもの未来を応援します	1 子育て環境の充実を図ります	幼保連携型認定こども園の整備と学童保育の充実	A	3	こども未来課
			特別保育ならびに多子世帯への保育料軽減	B	3	
			親子のふれあいや地域交流を通じた子育て支援の実施	B	3	
		2 心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます	健全育成関係機関・団体との連携	A	3	総合教育センター
3 安全・安心な教育環境を整えます	教育施設耐震化と環境整備	B	3	教育総務課		

< 施策評価の分布 >

実践目標を構成する各取組内容の評価分布数は、下記の表のとおりです。

難易度	A	B	C	合計		達成度	4	3	2	1	合計
施策数	9	13	0	22		施策数	1	21	0	0	22
割合(%)	41%	59%	0%			割合(%)	5%	95%	0%	0%	

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	1	遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育を進めます																																									
<p>●取組1 「体験的な活動の充実ならびに食育を通じて家庭、地域との連携推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人や物との関わりを通して、多様な体験ができるよう環境構成を工夫し、コミュニケーション力や思考・表現力の育成を推進 ・地域、家庭などと連携した健全な食育活動の実践 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく園活動を実施し、絵本の読み聞かせなど地域の教育力を生かした、様々な体験活動の取組を通じて地域と幼児の関わりを深めた。 ・園庭の畑で、自分たちで種まきをして育てた野菜を収穫する喜びを体感し、さらに収穫物を調理して食べることの楽しさを味わう体験を進めた。また、保護者に対し食育の大切さを伝えるため、健康課・加西市いずみ会と連携して引き続き5歳児対象の食育講座を実施した。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th colspan="2">H26</th> <th colspan="2">H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太鼓演奏</td> <td>1園</td> <td>園児 28人</td> <td>1園</td> <td>園児 49人</td> </tr> <tr> <td>地域の行事に参加</td> <td>9園</td> <td>園児 553人</td> <td>10園</td> <td>園児 596人</td> </tr> <tr> <td>絵本の読み聞かせ</td> <td>10園</td> <td>園児 573人</td> <td>10園</td> <td>園児 596人</td> </tr> <tr> <td>こども茶道教室</td> <td>3園</td> <td>園児 70人</td> <td>3園</td> <td>園児 89人</td> </tr> <tr> <td>こどもヨガ教室</td> <td>3園</td> <td>園児 75人</td> <td>2園</td> <td>園児 89人</td> </tr> <tr> <td>リズム遊び</td> <td>2園</td> <td>園児 43人</td> <td>3園</td> <td>園児 59人</td> </tr> <tr> <td>食育講座</td> <td>11園</td> <td>園児・保護者 515人</td> <td>7園</td> <td>園児・保護者 463人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の心が動く体験活動を大切にしながら、各園の特徴ある取組の中で培われる学びを意識し、他園との柔軟な協力体制を構築して保育の質を充実していく必要がある。 ・私立園の独自性を尊重しつつ、普及啓発や研修について継続的呼びかけを行う必要がある。 			成果指標	H26		H27		太鼓演奏	1園	園児 28人	1園	園児 49人	地域の行事に参加	9園	園児 553人	10園	園児 596人	絵本の読み聞かせ	10園	園児 573人	10園	園児 596人	こども茶道教室	3園	園児 70人	3園	園児 89人	こどもヨガ教室	3園	園児 75人	2園	園児 89人	リズム遊び	2園	園児 43人	3園	園児 59人	食育講座	11園	園児・保護者 515人	7園	園児・保護者 463人	<p>担当課</p> <p style="text-align: center;">こども未来課</p>
成果指標	H26		H27																																								
太鼓演奏	1園	園児 28人	1園	園児 49人																																							
地域の行事に参加	9園	園児 553人	10園	園児 596人																																							
絵本の読み聞かせ	10園	園児 573人	10園	園児 596人																																							
こども茶道教室	3園	園児 70人	3園	園児 89人																																							
こどもヨガ教室	3園	園児 75人	2園	園児 89人																																							
リズム遊び	2園	園児 43人	3園	園児 59人																																							
食育講座	11園	園児・保護者 515人	7園	園児・保護者 463人																																							
			評価																																								
			<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																																								

●取組2 「3～5歳児(36か月)の発達を見通した教育カリキュラムを実施」

担当課

・人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度の育成

●成果

- ・本市の3歳～就学前児童の保育・教育プログラムを策定し、遊びを通して関わる力などの育成が図れた。
- ・作成された3歳児から就学前までの保育カリキュラムを、各園の教育目標に合わせて実践した。
- ・幼稚園は2年、認定こども園は3年の幼児教育を行い、同年齢や異年齢の友達と遊ぶことによって知的好奇心や社会性を伸ばす教育を進めた。
- ・基本的な生活習慣チェック表「すくすくカード」に基づき、年間5回家庭での状況をチェックしていただき、基本的な生活習慣定着に努めた。
- ・職員の資質向上を図るため、市指定研究発表会を賀茂幼稚園で実施し、幼保職員80人が参加した。

こども未来課

●課題

- ・0歳～5歳児までの成長や地域の特性に応じた保育・幼児教育プログラムにより、公私立園の共通理解を深める必要がある。
- ・認定こども園は、学校教育法にもとづく3歳児からの幼児教育を全ての園児に提供し、保護者の就労状況に左右されずに子供を受け入れられる施設であることを、広く地域住民や保護者に周知を図る必要がある。
- ・認定こども園の推進に必要な保育教諭を確保するため、幼稚園免許と保育士資格の併有を促進し、就学前教育を担う教員や保育士の確保と育成に努める。

評価

●取組3 「小学校教育への滑らかな接続に情動知能を育てるSTARTプログラムの実践」

担当課

・幼児期において対人関係の基礎を習得するにあたり自己抑制と集中力を高めることで小1プロブレムの解消

●成果

- ・保育士、幼稚園教諭が継続してSTARTプログラムに取り組むようになったことで職員間の連携が図れるようになった。
- ・幼児教育研修講座のSTARTプログラム講座(8月)を受講し、取り組み方の再確認を行った。
- ・STARTプログラムは支援の必要な幼児も視覚で情報が得やすいので、有効であることが確認できた。
- ・幼小交流後の反省会で、小学校教諭から子どもが集中して学習する態度の育ちの実態を把握することができた。

こども未来課

●課題

・目に見えて大きく成果が見えるものではないが、STARTプログラムを実践した子ども達の追跡調査研究を進めていけるよう各校種間の理解・連携を図り、さらなる成果を明らかにしていく。

・取組の方法については、担任の経験を活かしながら、各年齢の発達段階や活動に対応する必要がある。

評価

●取組4 「子育て相談などの機会設定と療育・健康部門と連携した子育て支援の推進」

- ・就園前の親子を対象に、育児相談ならびに体験保育の場として園庭開放
- ・発達障害児支援について療育・健康部門との連携を図り、加配職員を適正に配置
- ・個々の特性に応じた支援・指導計画の立案及び発達に応じた支援ファイルの作成

●成果

・未就園児親子を対象に延べ45回の園庭開放や幼稚園ウイークなどの公開保育を計30回開催した。また、親子参加事業等を63回開催し、子育て不安解消に向けた取組を行った。

・発達相談等のあった3歳児以上の園児44名を対象に、個々の実態調査を行ったうえ支援担当職員17名の配置を決定した。また、私立園には加配職員配置助成措置を1件講じた。

・発達支援児個別の指導計画を基に個々の支援ファイルを作成し、特別支援ネットワーク会議で、保幼小職員相互で支援ファイルをもとに情報伝達を行うことで支援の継承を図った。

●課題

・療育機関等の関係機関との連携を密にすることで情報を早期に共有化し、個々の発達状況を客観性をもって把握し、より適切な支援ができるように保育者の資質向上に努める必要がある。

・特別支援児支援担当職員を臨時職員で対応しているが、まだ職員は恒常的に不足状態であり、職員確保が喫緊の課題である。

担当課

こども未来課

評価

実践目標	2	発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます												
<p>●取組1 「幼小中学校及び関係機関との連携の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中特別支援ネットワーク会議における発達支援電子ファイルの活用 ・発達支援電子ファイルの県立高等学校への引継ぎ ・個々の成長を促す発達支援プログラム(小集団トレーニング、保護者学習会、教職員研修会)の実施 ・相談関係機関の連絡協議会や医療機関のケース会議を通じた発達相談体制の整備 ・小中連携教育推進委員会を開催(年間3回) ・小中連携推進プランに基づく取組の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援電子ファイルを、複数の県立高等学校に引き継ぐことで、継続的な支援を図ることができた。 ・相談関係機関相談員・専門医師等との共通理解を深め、多面的な成長について、保護者や関係者に情報を提供し、相互交流を図ることができた。 ・発達支援プログラムの実施において、児童の集団適応力を高めるトレーニングを実施した。また、教職員指導者研修会を実施して、学校現場の教員・スクールアシスタント等の指導力の向上を図り、実態に即した支援活動等を、一緒に研究・実践することができた。 ・各学校や各中学校区における小中連携教育の取組が、継続・発展・増加してきた。 ・小中連携推進プランを策定するとともに、3回の推進委員会を開催し、各校の情報交換を図るなかで、今後の方向性を確立することができた。 ・市内関係機関・市役所関係課等の、これまでの連携体制を広く理解していただくため、フォーラム形式による講座を計画し準備を行っている。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より一層、学校・保護者・関係機関等とが連携を深め、発達支援電子ファイルの有効活用に関する具体的方法を検討し、総合的・継続的な支援に結びつけることが必要である。 ・小中連携推進プランに基づき、各中学校区の現状と課題を見つめながら、9年間のカリキュラムを作成する等、具体的な取組を実施する。 		<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p>												
		<p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1310 1547 1489 1720"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												

実践目標	3	知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります																											
<p>●取組1 「基礎的基本的な知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力等を培う授業づくり」</p>			担当課																										
<ul style="list-style-type: none"> ・「かさい学力向上プロジェクト事業」による全国学力・学習状況調査の分析・考察を踏まえ、確かな学力の一層の定着を図る効果的かつ実践的な指導方法についての研修を実施 ・市教委指定学習指導研究発表校と連携した「学力向上推進授業改善講座」の実施 ・全教職員を対象とした「教育フォーラム」による授業力向上の推進 ・「かさい学力向上シンポジウム」による学力向上の実践的な指導の検討 ・「家庭学習ハンドブック」を活用した家庭学習の推進 ・図書館と連携した学校図書の充実と環境整備 ・ALTの幼小中への派遣による英語授業(外国語活動)の充実 			学校教育課 総合教育センター																										
<p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の学力は全ての科目で全国平均と同程度以上になり、改善傾向が見られる。中学生については、国語はやや高い状況が見られる。 ・平日の家庭学習において、1時間以上学習する児童生徒の割合は、小学校ではほぼ横ばいであるが、中学校では10ポイント以上増加した。 ・学力向上につなげるため、市教委指定研究校と連携し、授業の工夫改善について、公開授業や大学教授による講座を開催した。 ・幼児児童生徒が英語に慣れ親しむとともに、コミュニケーション能力の向上を図るため、ALTによる英語授業(外国語活動)を幼児期にも拡充した。 																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">学力の状況(全国平均との比較)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">小学校</td> <td>国語A</td> <td>同程度</td> <td rowspan="4">中学校</td> </tr> <tr> <td>国語B</td> <td>高い</td> </tr> <tr> <td>算数A</td> <td>やや高い</td> </tr> <tr> <td>算数B</td> <td>やや高い</td> </tr> </tbody> </table>			学力の状況(全国平均との比較)				小学校	国語A	同程度	中学校	国語B	高い	算数A	やや高い	算数B	やや高い	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上学習する児童生徒の割合</td> <td>小</td> <td>63.7%</td> <td>62.2%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>64.7%</td> <td>76.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〔H27全国学力・学習状況調査(文科省)〕</p>		成果指標		H26	H27	学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上学習する児童生徒の割合	小	63.7%	62.2%	中	64.7%	76.0%
学力の状況(全国平均との比較)																													
小学校	国語A	同程度	中学校																										
	国語B	高い																											
	算数A	やや高い																											
	算数B	やや高い																											
成果指標		H26	H27																										
学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上学習する児童生徒の割合	小	63.7%	62.2%																										
	中	64.7%	76.0%																										
<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく導入したタブレットの利用などICT機器を効果的に活用した学習活動について研究を深め、多様な学習活動による思考力・判断力・表現力等を培う授業づくりに努める必要がある。 ・基礎的基本的な知識・技能の定着や学習習慣の確立を図るため、「かさいがんばりタイム」の効果的な活用を図る必要がある。 ・学校図書館の環境整備の一環として、蔵書冊数のさらなる充実を図るとともに、児童生徒の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能の充実を図る必要がある。 			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価																								
評価																													

●取組2 「児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の推進」

担当課

- ・市単事業で全小・中学校に配置している、スクールアシスタント、ヤングアドバイザーの配置時間数増による、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導のさらなる充実
- ・児童生徒支援教員や観察実験アシスタントを配置し、個に応じたきめ細かな指導の実施
- ・新学習指導システム教員の活用による少人数指導・同室複数指導の推進

●成果

- ・国語、算数・数学の授業がよくわかると回答した児童生徒の割合は、わずかではあるが前年度より高くなっており、改善傾向である。
- ・児童生徒の個々のニーズに合わせ、さらにきめ細かな指導の充実を図るため、スクールアシスタント、ヤングアドバイザーに加え、新たにスクールケアワーカーを導入した。
- ・児童生徒支援教員や新学習システム教員等の加配教員を活用し、少人数指導やティームティーチングなど児童生徒の発達段階に応じた学習形態を工夫できた。

学校教育課

成果指標		H26	H27
授業(国、算・数)がよくわかると回答した児童生徒の割合	小	77.4%	79.6%
	中	65.8%	67.1%

[H27全国学力・学習状況調査(文科省)]

●課題

- ・学習内容の習熟の程度に応じた指導や補足的・発展的な学習など、さらにきめ細かな指導の充実を図る必要がある。
- ・市が独自に配置しているスクールアシスタントやヤングアドバイザー、スクールケアワーカー等と学級担任、教科担任との連携を進め、児童生徒の実態に応じて、サポーターとしてのより効果的な活用を図る必要がある。
- ・児童生徒のひとりひとりの実態に応じたきめ細かい指導を行うために、各学校にスクールアシスタント、ヤングアドバイザーに加え、新たにスクールケアワーカーを配置しているが、規模の大きな学校や特別な支援を必要とする児童生徒が多い学校では、いまだ十分な人数とは言えない。

評価

実践目標	4	自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます					
●取組1 「豊かな心を育成する道徳教育や体験活動等の充実」					担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を要にした教育活動全体に位置づけた道徳教育の充実 ・道徳教育研修講座等による教員の指導力向上 ・基本的な生活習慣を身につけることを目的とした、生活習慣「あ・い・う・え・お」の推進 ・学校と家庭が連携し、規範意識や自尊感情、他者への思いやりの育成 ・家庭や地域、関係団体と連携した体験活動をとおり、豊かな心を育成 					学校教育課		
●成果							
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の道徳性に関して、規則の尊重や思いやりについての意識が高いが、自尊感情等についてはやや低い状況である。 ・道徳教育の充実を図るため、道徳の時間を要に児童生徒の道徳的実践力を育むとともに、道徳的実践の場である体験活動(自然学校、トライやる・ウィーク等)との連携を図った。 ・学習指導要領の改訂内容や道徳教育の充実についての周知を図るため、道徳教育研修講座や新任教員を対象とした道徳教育スキルアップ研修を実施した。 ・基本的な生活習慣の定着とともに、規範意識の醸成を図るため、家庭学習ハンドブックを改訂し、生活習慣「あ・い・う・え・お」や、すこやか「ね・ひ・め・つ・こ」等を家庭に周知し、学校と家庭のさらなる連携を推進した。 							
成果指標		H26	H27	成果指標		H26	H27
学校のきまり(規則)を守っていると思う児童生徒の割合	小	94.8%	93.1%	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小	77.1%	72.3%
	中	88.5%	92.2%		中	59.8%	57.9%
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合	小	95.3%	93.4%	難しいことにも失敗を恐れず挑戦している児童生徒の割合	小	72.4%	73.7%
	中	95.3%	94.1%		中	61.8%	61.6%
〔H27全国学力・学習状況調査(文科省)〕							
●課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・市教委指定研究校による実践的な研究を推進するとともに、公開授業等による全市的な周知により、道徳の時間のさらなる充実を図る必要がある。 ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果や学校独自のアンケート調査等を活用し、生活習慣等の実態把握に努めるとともに、自尊感情が低い状況等の課題改善に向けた取組を進める必要がある。 					評価		

●取組2 「いじめ防止の取組の充実」

- ・市子どものいじめ防止等に関する条例、学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施
- ・いじめ対応加西市ネットワーク会議の開催(年5回)
- ・市子どもいじめ問題対策審議会の開催(年2回)

●成果

・市いじめ防止基本方針・市子どものいじめ防止等に関する条例に従い、長期休業日等を利用しての校内研修会を、最低1回以上実施することを義務づけ、いじめ防止に向けた体制を確立するとともに、学校におけるいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の取組を推進することができた。

●課題

・市いじめ防止基本方針や市子どものいじめ防止等に関する条例にのっとり、さらに具体的な取組を推進する必要がある。

担当課

総合教育
センター

評価

実践目標	5	運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます																																	
●取組1 「体力・運動能力の向上、健康教育、食育の推進・充実」		担当課																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・加西市における部活動の教育的効果と課題克服をめざした「部活動ガイドライン」の策定 ・各校における体力測定および「運動プログラム2009」の実施 ・関係機関との連携事業や外部講師招聘等による健康教育の推進 ・望ましい食習慣の形成と定着を図るための食育指導の充実 ・体力・運動能力についての現状分析と「体力向上プロジェクト事業」展開に向けた準備 		学校教育課																																	
●成果																																			
<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業が楽しいと答えた児童生徒の割合は、小学校では90%以上と高いが、中学女子では少し低くなっている。 ・毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、中学校ではほぼ横ばいであるが、小学校は90%を越え、改善傾向である。 ・「部活動ガイドライン」の策定及び家庭への周知により、教育的意義を高める部活動のあり方、少子化等にともなう課題克服をめざした体制づくりについて、一定の方向性を示すことができた。 ・食育指導の充実を図るため、栄養教諭による食育・栄養指導年間指導計画を小・中・特別支援学校用に作成した。 																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">体育の授業は楽しいと答えた児童生徒の割合 〔全国体力・運動能力調査(文科省)〕</td> <td>小学男子</td> <td>95.4%</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>小学女子</td> <td>93.5%</td> <td>91.3%</td> </tr> <tr> <td>中学男子</td> <td>88.6%</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td>中学女子</td> <td>82.0%</td> <td>74.3%</td> </tr> </tbody> </table>		成果指標		H26	H27	体育の授業は楽しいと答えた児童生徒の割合 〔全国体力・運動能力調査(文科省)〕	小学男子	95.4%	95.8%	小学女子	93.5%	91.3%	中学男子	88.6%	85.0%	中学女子	82.0%	74.3%	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">毎日朝食を食べる児童生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査(文科省)〕</td> <td>小</td> <td>87.5%</td> <td>92.2%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>85.0%</td> <td>85.8%</td> </tr> </tbody> </table>		成果指標		H26	H27	毎日朝食を食べる児童生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査(文科省)〕	小	87.5%	92.2%	中	85.0%	85.8%				
成果指標		H26	H27																																
体育の授業は楽しいと答えた児童生徒の割合 〔全国体力・運動能力調査(文科省)〕	小学男子	95.4%	95.8%																																
	小学女子	93.5%	91.3%																																
	中学男子	88.6%	85.0%																																
	中学女子	82.0%	74.3%																																
成果指標		H26	H27																																
毎日朝食を食べる児童生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査(文科省)〕	小	87.5%	92.2%																																
	中	85.0%	85.8%																																
●課題																																			
<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上プロジェクト事業」展開に向け推進委員会を開催したが、児童生徒の体力・運動能力の向上を図る効果的な取組について、引き続き検討する必要がある。 ・栄養教諭による食育・栄養指導年間指導計画を取り入れ、各校の食育年間指導計画を見直すとともに、栄養教諭の効果的な活用による食育・栄養指導を推進する必要がある。 		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						評価																											
評価																																			

●取組2 「安全安心な学校給食の実施」

- ・小中特別支援学校の完全給食
- ・地産地消の推進
- ・アレルギー対応食の実施

●成果

- ・平成26年1月以降に、市内全学校において、完全給食が実施されている。
- ・平成26年9月より、アレルギー対応食調理室を完備している北部学校給食センターの受配校に限り、卵除去食を供給している。
- ・米については、市内産のヒノヒカリを100%使用している。また、野菜については、播磨農業高校と愛菜館より市内産を購入している。

●課題

- ・現在は、学校給食センター2施設と、単独調理場3施設で、全学校の給食を調理しているが、南部学校給食センターが建設より48年が経過しており、老朽化が進んでいる。南部学校給食センターの改築を早急に行い、3単独調理場の統廃合を行うことが必要である。南部給食センターの改築によりアレルギー対応食調理室を整備することで、全市の学校にアレルギー対応食の配食が可能となる。
- ・地産地消について、市内産の野菜は、種類と生産量に限りがある為、給食メニューを工夫して、地産地消率を上げることが今後の課題である。

担当課

教育総務課

評価

実践目標	6	家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます													
<p>●取組1 「特色ある学校づくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワッシュョイスクール」・「学校づくり応援事業」等による特色ある学校づくりの実施 ・地域の自然や文化、人を活用した特色ある取組の実施 ・家庭や地域と連携した教育活動の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワッシュョイスクールをはじめ、地域住民の協力による様々な活動が実現し、教育活動の充実を図ることができた。 ・家庭・地域等と連携した取組が増え、地域に信頼される学校、開かれた学校づくりに繋げることができた。 <table border="1" data-bbox="360 831 1230 920"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ワッシュョイスクール登録者数</td> <td>1,000人</td> <td>1,200人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワッシュョイスクール」・「学校づくり応援事業」は、定着しているが、さらに工夫して充実した取組を実施することが必要である。 ・各学校の取組を様々な機会でご報告することで、地域のさらなる協力が得られるようにする。 			成果指標	H26	H27	ワッシュョイスクール登録者数	1,000人	1,200人	<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p>						
成果指標	H26	H27													
ワッシュョイスクール登録者数	1,000人	1,200人													
			<p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1305 1093 1477 1258"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												

実践目標	7	教職員としての資質能力の向上に努めます													
<p>●取組1 「教職員の研修講座の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員対象アンケート調査の結果をもとに21コース、38講座の研修講座の開催 ・実践に即した事例研修やワークショップ、現地研修など多彩な講座の開催 ・全教職員を対象とした教育フォーラムの開催(年1回) ・教科指導の力を向上させる学力向上授業講座の開催 ・講座終了後、参加者全員を対象とする講座評価アンケートの実施(年1回) <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座評価アンケート調査による評価が、5段階平均で4.64ポイント(昨年度比0.02減)という、受講者の高評価を得ることができた。 ・希望すれば参加できる講座を増やしたこと、魅力ある講座を開催したこと等が、よい結果に繋がったと思われる。 ・教師力向上講座や学力向上授業講座等を実施することで、教職員の実践的指導力を向上させることができた。 <table border="1" data-bbox="363 1019 1230 1236"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員の研修講座の数</td> <td>35講座</td> <td>39講座</td> </tr> <tr> <td>講座受講者延べ人数</td> <td>803人</td> <td>1,124人</td> </tr> <tr> <td>講座評価アンケート(5段階評価)</td> <td>4.66ポイント</td> <td>4.64ポイント</td> </tr> </tbody> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望すれば参加することができる講座や、より魅力ある研修講座を増やすことが必要である。 ・講師との事前打ち合わせを綿密に行い、受講者のニーズに合った充実した講座を実施する。 			成果指標	H26	H27	教職員の研修講座の数	35講座	39講座	講座受講者延べ人数	803人	1,124人	講座評価アンケート(5段階評価)	4.66ポイント	4.64ポイント	<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p>
成果指標	H26	H27													
教職員の研修講座の数	35講座	39講座													
講座受講者延べ人数	803人	1,124人													
講座評価アンケート(5段階評価)	4.66ポイント	4.64ポイント													
			<p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1305 1406 1476 1576"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												

※評価基準の表示については、横軸:難易度、縦軸:達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境整備や研修会等を通じた職員の資質向上に努め、3歳児からの教育を系統立てることで、発達段階に合わせた学びの基礎力を明確に把握できるようになった。栽培収穫など五感を通じた体験活動や地域との交流を通じて食育の推進を図った。特別支援教育は、関係機関等との連携により相談体制や支援体制を整えた。 ・特別支援児支援担当職員を臨時職員で対応しているが、まだ職員は恒常的に不足状態であり、職員確保が喫緊の課題である。 ・発達支援電子ファイルを、複数の県立高等学校へ引き継ぐことで、対象となる生徒の継続的な支援を図ることができた。 ・小中連携事業や地域と連携した事業等、多様な体験活動等を通じて、他者への思いやりや公共の精神などを培うことができた。 ・小中連携推進プランを策定することで、市の推進体制を確立するとともに、小中連携教育推進委員会を開催することで各学校における小中連携教育の理解を深め、各校区毎に特色ある取組を増やすことができた。 ・全国学力・学習状況調査の分析結果や考察をまとめ、「かさい教育ねっと(市教委機関紙)」で公表し、改善に向けたポイントを明確にした。また、「学力向上推進授業実践講座」や「学力向上シンポジウム」を開催し、実践的な指導方法について研修を深めることができた。 ・スクールアシスタント、ヤングアドバイザーに加え、新たにスクールケアワーカーを導入し、個に応じたよりきめ細やかな指導体制を図ることができた。 ・児童生徒のひとりひとりの実態に応じたきめ細かい指導を行うために、各学校にスクールアシスタント、ヤングアドバイザーに加え、新たにスクールケアワーカーを配置しているが、規模の大きな学校や特別な支援を必要とする児童生徒が多い学校では、いまだ十分な人数とは言えない。 ・家庭学習ハンドブックを改訂し、生活習慣「あ・い・う・え・お」や、すこやか「ね・ひ・め・つ・こ」等を家庭に周知し、学校と家庭のさらなる連携を推進することにより、基本的な生活習慣の定着とともに、規範意識等の醸成を図ることができた。 ・課題として、家庭教育の重要性の情報提供を行い、家庭教育の向上につなげる必要がある。 ・市いじめ防止基本方針や市子どものいじめ防止等に関する条例にのっとり、市のいじめ防止の取組の体制を確立することができた。 ・「部活動ガイドライン」の策定及び家庭への周知により、教育的意義を高める部活動のあり方、少子化等にもなう課題克服をめざした体制づくりについて、一定の方向性を示すことができた。 ・学校給食については、給食センター2施設と単独調理場3施設で、全小・中・特別支援学校に完全給食を配食している。アレルギー対応策として、卵除去食の配食を平成26年9月より実施することで、質の高い学校給食が実現できた。また、地産地消については、播磨農業高等学校と愛菜館より市内産農産物を購入することで推進が図れた。 ・老朽化の進んでいる南部給食センターの改築を早急に行い、3単独調理場の統廃合を行うことが必要である。同センターの改築によりアレルギー対応食調理室を整備することで、全市の学校にアレルギー対応食の配食が可能となる。 	

- ・地域の特性を活かした特色ある学校づくりを実施し、地域住民との交流や協力を受けることができた。
- ・総合教育センターにおいて、アンケート調査をもとに教職員の希望を尊重し、教科に関する講座やワークショップ形式の講座など、実践に即した様々な内容の研修講座を開催し、昨年度より4割増加という多くの受講者数があった。講座評価アンケート結果も、5段階評価で4.64ポイントという高い満足度を得ることができた。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>3歳児からの保育カリキュラムや、これに続くスタートカリキュラムなど具体的な動きが見られる。「育ち」や「学び」の連続性を確実なものとするために、カリキュラムの実施を支援しながら、子供たちの成長を追跡調査し客観的なデータとしてとりあげ評価することが必要と思われる。</p> <p>取組の成果が、学校・園が行ったことや教員の取り組んだこと、作ったもの、参加した人数等だけでなく、「到達すべき数値(学力・体力等)」「達成すべき状態」等で示すことを検討されたい。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	2	「市民が主役」の生涯学習社会づくりを進めます
------	---	------------------------

実践目標	1	市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいを進めます																
●取組1 「学習機会の提供と生きがいをづくりの推進」		<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の機能の充実と条件整備 ・公民館主催講座の拡充(年間40講座)等生涯学習機会の充実 ・市広報の外、様々な媒体を利用し、生涯学習情報を発信する ・公民館登録グループ出前講座の参画グループが30グループとなるよう推進 	担当課															
●成果			生涯学習課															
		<ul style="list-style-type: none"> ・善防公民館の空調設備修理、オークタウン加西のテニスコート人工芝改修工事を実施し、社会教育施設の機能を充実させた。 ・北部公民館が地域住民からの要望を受けて主催講座を開催し、地域の課題解決並びに福祉の向上に大きく寄与した点が評価され、「第68回優良公民館表彰」を受賞した。 ・市広報、チラシ、インターネット、SNS等様々な媒体を活用し、生涯学習情報を発信した。 																
		<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">成果指標</th> <th style="width: 30%;">H26</th> <th style="width: 30%;">H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公民館主催講座数</td> <td style="text-align: center;">51講座</td> <td style="text-align: center;">53講座</td> </tr> <tr> <td>公民館主催講座参加延人数</td> <td style="text-align: center;">8,473人</td> <td style="text-align: center;">9,510人</td> </tr> <tr> <td>公民館出前講座実施グループ数</td> <td style="text-align: center;">18グループ</td> <td style="text-align: center;">25グループ</td> </tr> <tr> <td>公民館出前講座受講者数</td> <td style="text-align: center;">1,244人</td> <td style="text-align: center;">2,300人</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	H26	H27	公民館主催講座数	51講座	53講座	公民館主催講座参加延人数	8,473人	9,510人	公民館出前講座実施グループ数	18グループ	25グループ	公民館出前講座受講者数	1,244人	2,300人	
成果指標	H26	H27																
公民館主催講座数	51講座	53講座																
公民館主催講座参加延人数	8,473人	9,510人																
公民館出前講座実施グループ数	18グループ	25グループ																
公民館出前講座受講者数	1,244人	2,300人																
●課題		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で自主的に学ぶ登録グループの高齢化と固定化が進み、活性化を図ることが必要である。また、「公民館まちづくり出前講座」は年々参加者数は増えているものの、講座を行うグループに偏りが見られる。 ・主催講座の参加者が地域活動に参加するなど、学習成果を還元できるようになってきた。今後も引き続き、社会課題の解決を図るものや地域のニーズに対応した学習機会を提供し、地域づくりや地域振興を担う人材を育成し、まちづくりに寄与する役割を果たしていく必要がある。 ・社会教育施設の老朽化が進み、維持改修費用が多大なものになっている。 	評価															
			<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px; background-color: black;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td></tr> </table>															

●取組2 「学習拠点としての図書館の機能整備と有効活用」

- ・蔵書充実と近隣市町との連携強化による図書館有効活用
- ・雑誌スポンサー導入による雑誌種類の拡大
- ・読書活動を推進するための各種イベントの開催
- ・学校図書館との連携及び幼児期からの子ども読書活動の推進

●成果

- ・図書館の有効活用を図るため、平成28年1月より加東市、西脇市、多可町との連携による返却サービスを始め、他市でも本の返却ができるようにし、利用者の利便性を向上させた。
- ・読書活動の推進のため、読み聞かせや図書館まつりのほか、7月には養老孟司氏を招き中学2・3年生を対象とした講演会を開催、また、学校図書館との連携としてブックトークや出前講座、託送サービスを実施するなど、学習機会の提供に努めた。
- ・読書に親しむ取組として、学校や幼保からの要請を受け、幼児への読み聞かせや蔵書整理、配架相談を行い、幼児期からの子ども読書活動の推進を図った。

成果指標	H26	H27
蔵書数	201,681点	208,268点
貸出冊数	394,367点	417,613点
雑誌スポンサー数	23社、40誌	28社、49誌
雑誌種類	180誌	187誌

●課題

- ・昨年度から貸出冊数が対前年度比で大幅に増加に転じているが、読書離れの傾向が顕著となる中学生向けの読書活動の推進が課題である。
- ・学校図書館法改正により、各学校に学校司書を置くように努めることとなっているが、予算や人材育成の面からも図書館との連携を含めた態勢整備が必要となっている。

担当課

図書館

評価

実践目標	2	豊かな心を育み、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります																			
<p>●取組1 「指定文化財および埋蔵文化財の保護活用と情報発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財整備活用 未指定文化財の再評価 埋蔵文化財包蔵地の周知と開発計画との調整 地域、学校教育、イベントへの出前講座・説明会等の開催(開催6回) 玉丘史跡公園の効率的な管理と運営 埋蔵文化財整理室等の活用(資料展示2回 来館目標250人) <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡玉丘古墳群整備基本計画を策定。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定文化財修理</td> <td>1件</td> <td>31件</td> </tr> <tr> <td>埋蔵文化財開発調整事務</td> <td>286件</td> <td>316件</td> </tr> <tr> <td>出前講座・見学会参加者</td> <td>660人</td> <td>629人</td> </tr> <tr> <td>整理室展示来室者</td> <td>764人</td> <td>1,131人</td> </tr> <tr> <td>玉丘史跡公園来園者</td> <td>34,637人</td> <td>48,680人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 建造物の老朽化や石造物の風化等の問題、未指定文化財を含め防火防犯の問題があり、文化財の保存と維持管理の充実を図ることが課題である。 看板設置や情報発信、観光ルート設定等、文化財の観光資源化への取組の拡充が必要である。 			成果指標	H26	H27	指定文化財修理	1件	31件	埋蔵文化財開発調整事務	286件	316件	出前講座・見学会参加者	660人	629人	整理室展示来室者	764人	1,131人	玉丘史跡公園来園者	34,637人	48,680人	担当課
成果指標	H26	H27																			
指定文化財修理	1件	31件																			
埋蔵文化財開発調整事務	286件	316件																			
出前講座・見学会参加者	660人	629人																			
整理室展示来室者	764人	1,131人																			
玉丘史跡公園来園者	34,637人	48,680人																			
			生涯学習課																		
			評価																		

●取組2 「地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動支援」

- ・文化財サポーター(ボランティア)活動の支援(活動日12日 参集目標24人)
- ・「文化遺産を活かした地域活性化事業」の推進(13団体)
- ・「加西市史を読む会」の開催(10回開催 参集目標200人)
- ・宇仁郷まちづくり協議会、宇仁郷歴史資料館開館に向けたサポート(10/25開館)
- ・青野原俘虜収容所開設100周年事業の実施(関連イベント6回 参集目標200人)
- ・市内各文化財保存会等の活動支援(34団体)

●成果

- ・地域と協働で宇仁郷歴史資料館を10月25日(宇仁郷コスモスマつり)に開館。
- ・青野原俘虜収容所開設100周年事業を神戸大学・小野市立好古館と共催で実施し、市域外を含めた広域イベントを開催(関連イベント6回 参集者261人 冊子印刷1,000部)。

成果指標	H26	H27
文化財サポーター活動	19人	17人
文化遺産を活かした地域活性化事業	9団体	13団体
文化財保存会等活動助成	33団体	34団体
市史を読む会 開催/人数	10回/203人	9回/189人

●課題

- ・文化財サポーター(ボランティア)については、活動実態が施策の方向性と離れてきているので、平成28年度に再編成を計画している。
- ・歴史遺産や伝統文化の担い手である地域の文化財保存会等への活動支援の充実を図ることが課題である。

担当課

生涯学習課

評価

※評価基準の表示については、横軸:難易度、縦軸:達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館では、登録グループによる出前講座は軌道に乗り、地域と連携した地域課題解決型の講座の受講生が実際に学習成果を活かし、地域活動を始めている。オークタウン加西では主催講座の外、社会教育団体が定期的にイベント等を開催するなど、生涯学習推進が順調に進んでいる。 ・社会教育施設の老朽化が進み、維持改修費用が多大なものになっている。 ・図書館では、蔵書数の増により学習拠点としての機能を充実させることができた。学校図書館との連携による読み聞かせや蔵書整理、配架相談により子どもの読書活動の推進が図れた。 ・文化財保護活動、歴史文化遺産の活用とも多種多様な事業を着実に実施できている。玉丘古墳群整備基本計画の策定も完了した。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>実践目標が市民の姿で語られており、取組についても一貫性がある。成果は、参加した人数や登録者数を示されていることから、目標にも数値目標等を掲げることを検討されたい。</p> <p>重点目標2の項目は、すべての取組が難易度設定Bとなっているが、今後は、学校教育との連携をはかりつつAレベルの新しい企画に着手し、市民が生涯学習の充実を実感できる指標により評価されることに期待する。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援します
------	---	------------------

実践目標	1	子育て環境の充実を図ります			担当課						
		<p>●取組1 「幼保連携型認定こども園の整備と学童保育の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかな成長を支える子育て環境整備の促進、幼保連携型認定こども園の整備と推進 ・放課後や土曜日の児童健全育成の場となる学童保育事業の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年4月、北条東こども園、泉幼児園を開設した。私立においても認定善防こども園、認定多聞こども園、認定愛の光こども園が開設した。市内の認定こども園は5園となり、うち幼保連携型こども園は3園となった。また、九会幼児園と別府幼児園を統合して整備する(仮称)加西こども園では、保護者や地域との協議を重ね、園舎整備にあわせた区画道路の都市計画の変更承認を受け、平成28年2月、仮設園舎整備に着手した。 ・学童保育は対象年齢を小学6年生まで拡充し、平成27年4月1日時点で293人に児童数が増えた。手狭となった北条東小学校には学童保育専用棟を平成28年3月に整備し、利用の確保を行った。また、指導員の確保・充実を図るため、毎月の連絡会を活用した指導や新人研修、県の資格認定研修(5名)への参加機会を拡充した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">成果指標</td> <td style="text-align: center;">H26</td> <td style="text-align: center;">H27</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学童保育入園者数</td> <td style="text-align: center;">225人</td> <td style="text-align: center;">293人</td> </tr> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保施設の再編によるこども園整備は地域事情、児童数の推移等、慎重に協議を進める必要があるが、泉中学校区における幼保一体化の対応、協議が急がれる。 ・公設による施設整備には建設に係る財源確保が必要である。 ・各校区とも学童保育の利用者が増加し、指導員と教室の確保が課題となっている。 			成果指標	H26	H27	学童保育入園者数	225人	293人	こども未来課
成果指標	H26	H27									
学童保育入園者数	225人	293人									
					評価						
					<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						
		<p>●取組2 「特別保育ならびに多子世帯への保育料軽減」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育、病児・病後児保育など特別保育の充実 ・多子世帯への保育料負担軽減及び一部助成の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育園の利用者は平成27年度に411人となり、制度の周知も進み、利用人数が増加した。 ・保育料の負担軽減をさらに進め、次年度より4・5歳児の保育所保育料の上限額を月額2万円から給食費相当分となる5千円に引き下げ、実質的な保育料の無料化を実施するための制度設計を行った。多子世帯に対する保育料軽減は、第2子58名、第3子92名の申請を受理し、負担軽減を行った。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">成果指標</td> <td style="text-align: center;">H26</td> <td style="text-align: center;">H27</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">病児・病後児保育園の利用者</td> <td style="text-align: center;">307人</td> <td style="text-align: center;">411人</td> </tr> </table>			成果指標	H26	H27	病児・病後児保育園の利用者	307人	411人	こども未来課
成果指標	H26	H27									
病児・病後児保育園の利用者	307人	411人									

●課題

- ・今後の保育料の設定については近隣市の動向と国の動向を注視する必要がある。

評価

●取組3 「親子のふれあいや地域交流を通じた子育て支援の実施」

- ・つどいの広場を活用した親子のふれあいや子育て支援活動の実施
- ・ねひめキッズ等の施設に子育て拠点を設け、相談ならびに就園前の親子交流の場に提供

担当課

●成果

- ・子育てひろばとして「ねひめキッズ」、「ほくぶキッズ」、「ぜんぼうキッズ」の各事業の重複や行事の整理を行い、各園の特色を活かした親子交流の場の提供に努めた。平成27年度の年間延べ利用者は25,690人と大きく伸びた。
- ・子育てハンドブックの大幅なリニューアルを行い、最新の子育て情報や写真に改め、視覚的にわかりやすい情報発信に努めた。あわせてメール配信サービスの配信頻度を高め、子育て広場に関する情報発信の強化に努めた。

こども未来課

成果指標	H26	H27
子育てひろば年間延べ利用者	20,942人	25,690人

●課題

- ・来園者の登録制度やグループ活動を促進し、新たな利用者を増やす工夫が求められる。

評価

実践目標	2	心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます										
<p>●取組1 「健全育成関係機関・団体との連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成に関わる関係機関・団体等の連携強化による育成事業や青少年非行防止活動の実施 ・教育相談体制の充実 ・小中学生のインターネット等の使用に関するアンケート調査を実施し、小中学生及び保護者に対して利用に関する注意を促す啓発リーフレットの作成・配布 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連合PTA、子ども会育成連絡協議会、青少年団体連絡協議会、青少年健全育成連絡協議会、青少年補導委員連絡協議会等と連携を密にし、青少年健全育成のための取組を推進することができた。 ・インターネット利用の危険性等についての認識を高めるために、市内全小中学生対象とした「インターネット等の利用についてのアンケート調査」を実施した。その分析結果を保護者向け啓発リーフレットとして作成し配布する等、ネットトラブル防止運動を実施することで、青少年の健全育成を推進した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに関わる問題行動や家庭の事情による問題等、様々な要因が複雑に絡んで、青少年の問題行動が起こっていることに対する対応の検討が必要である。 		担当課										
		総合教育センター										
			評価									
			<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									

実践目標	3	安全・安心な教育環境を整えます													
<p>●取組1 「教育施設耐震化と環境整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化工事として、富田小学校南校舎・西在田小学校地震改築工事、九会小学校北校舎・下里小学校北校舎・賀茂小学校校舎耐震補強工事と天井等非構造部材落下防止工事の完成 環境整備工事として、宇仁小学校渡り廊下設置工事の完成。日吉小学校プールサイド改修工事 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の耐震化工事により、学校の耐震化と非構造部材落下防止工事が完了し、国の耐震化基本計画であった平成27年度中に耐震化を完了する目標が達成できた。 宇仁小学校新校舎より、既設体育館の間に渡り廊下を設置することで、雨天時の移動を容易にした。日吉小学校のプールサイドを改修することで、隣接排水路からの浸水とプールサイドの不陸を解消した。 <table border="1" data-bbox="523 875 1233 965"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震化率</td> <td>88.5%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化は完了したが、改修を行っていない施設の老朽化が進んでいるため、計画的に改修工事を行う必要がある。 			成果指標	H26	H27	耐震化率	88.5%	100%	<p>担当課</p> <p>教育総務課</p>						
成果指標	H26	H27													
耐震化率	88.5%	100%													
			<p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1305 1137 1490 1310"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												

※評価基準の表示については、横軸:難易度、縦軸:達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・平成27年4月、北条東こども園、認定善防こども園、認定多聞こども園、認定愛の光こども園が開設し、市内の認定こども園は5園、そのうち幼保連携型こども園は3園となった。幼保施設の再編によるこども園整備は地域事情、児童数の推移等、慎重に協議を進める必要があるが、泉中学校区における幼保一体化の対応、協議が急がれる。</p> <p>病児病後児保育事業は利用者の拡大を図り、実績を伸ばした。また、子育てハンドブックの改訂を行い、子育て情報の発信に努めた。学童保育の利用者が増加し、指導員と教室の確保が課題となっている。</p> <p>・連合PTA、子ども会育成連絡協議会、青少年団体連絡協議会、青少年健全育成連絡協議会、青少年補導委員連絡協議会等の関係団体と連携を密にし、青少年健全育成のための取組を推進することができた。</p> <p>・小中学生対象の「インターネット等の利用についてのアンケート調査」の実施、保護者向け啓発リーフレットの作成・配布によるネットトラブル防止運動を実施することにより、インターネット利用の危険性についての認識を高めるとともにトラブル防止を図ることができた。</p> <p>・耐震化事業は、計画通り進み耐震化率は100%となった。また、非構造部材の落下防止工事も完了した。</p> <p>・耐震化は完了したが、改修を行っていない施設の老朽化が進んでいるため、計画的に改修工事を行う必要がある。</p> <p>・環境整備事業は、宇仁小学校において、新校舎と体育館の間に渡り廊下を設置し、雨天時の移動を容易にした。また、日吉小学校のプールサイドを改修し使用時の安全確保と環境の改善を図った。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>子育て環境の充実の観点からは、認定こども園の整備や土曜日の学童保育の利用者の増加数などが、成果として報告されているが、重点目標の1との関連で保育・教育内容の充実も合わせた成果を求めることが必要と思われる。</p> <p>実践目標2「心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます」においては、リーフレットの作成・配布した結果、子供たちの変化がどのように現れたかを具体的な数値として示されたい。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

総合コメント

教育施策の目標を掲げるときは、できる限り「めざす子どもの姿」や「ありたい地域の姿」で示されることが望ましい。その上で、目標実現のための取り組みがあり、さらに成果は子どもや地域の成長で示すことが、市民からの信頼に答える教育につながると考えられる。

また、目標の具現に向けて学校や行政の動きが市民から見える取り組みも必要であることから、実践目標を定めるとき、到達すべき数値や状態を明確に示すことも検討されたい。

今後は、学校教育と社会教育の融合が図られた、市民総掛かりの教育が振興されるための指標と子どもや地域の成長が可視化できる評価の実践に期待する。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学 教授	日渡 円
兵庫教育大学 教授	小西 哲也